

祈りと促し

十二使徒定員会会長
ボイド・K・パッカー会長

御霊の促しと祈りの経験は、教会では珍しいことではありません。それは天の御父がわたしたちのために与えてくださる啓示の一部です。

どんな父親でも、子供に生涯にわたる試練を受けさせるために、まず自分の身を守る力を与えもしないで、ルシフェルが自由にうろつき回っていることが分かっている遠い危険な地へ送り出したいとは思わないでしょう。また、父から子へ、子から父への連絡手段を与えることでしょう。地上へ送られた御父の子供は皆、キリストの御霊、すなわちキリストの光を与えられています。1 導きと贖いの希望もなく独りでほうっておかれる人は、一人もいないのです。

回復は、14歳の少年の祈りと、御父と御子の示現から始まりました。時満ちる神権時代が幕を開けたのです。

福音の回復は前世の存在についての知識をもたらしてくれました。聖文を読むと、天上の会議で、神の息子娘たちが肉体を受け、試みに遭うために現世に送られる決定がなされたことが分かります。2 わたしたちは神の子です。わたしたちの霊の体は今、死すべき肉体に宿っています。聖文はこう述べています。「あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。」(1コリント3：16)

わたしたちは神の子として、「偉大な幸福の計画」の一部であることが分かります(アルマ42：8)。

天で戦いがあり、ルシフェルと彼に従った者たちが肉体を受けずに追い出されたことをわたしたちは知っています。

「神に背き、わたしたちの神とそのキリストの王国を取ろうとしたサタン、年を経た蛇、すなわち悪魔……

彼は神の聖徒たちに戦いを挑み、彼らを取り囲む。」(教義と聖約76：28-29)

わたしたちは選択の自由を与えられています。3 それを賢明に使い、常に御霊を受けられるようにしなければなりません。そうしないと、愚かにも悪魔の誘惑に負けてしまいます。ただし、イエス・キリストの贖いを通して、わたしたちの過ちは洗い清められ、わたしたちの肉体は、復活するときに、本来の造りに回復されるのです。

「見よ、善悪をわきまえることができるように、すべての人にキリストの御霊が与えられているからである。さて、その判断の方法をあなたがたに教えよう。善を行うように誘い、またキリストを信じるように勧めるものはすべて、キリスト

の力と賜物によって送り出されているのである。したがってあなたがたは、それが神から出ていることを完全に理解してわきまえることができる。」(モロナイ7:16)

わたしたちは、御霊を通して完全な方法で意思疎通を行うことができます。「御霊はすべてのものをきわめ、神の深みまでもきわめる」からです(1コリント2:10)。

バプテスマを受けて末日聖徒イエス・キリスト教会へ入ると、第二の儀式を受けます。「聖霊の賜物を授けるための按手」です(信仰箇条1:4)。

靈感を与える御霊の優しく静かな声は、音として聞こえるというよりむしろ感じるものです。純粋な知性が心に語りかけるのです。聖霊は、肉体の感覚よりも思いを通してわたしたちの霊に語りかけてくださいます。4 この導きは、促しや印象を通して、考えや気持ちとなって訪れます。5 霊的な意思疎通の言葉は、聞こえるというよりは感じるものであり、肉体の目ではなく霊の目で見ることができます。6

わたしは長年、十二使徒定員会でリグランド・リチャーズ長老とともに奉仕しました。彼は96歳で亡くなりました。リチャーズ長老は、12歳の少年のときに出席したタバナクルでの総大会のことを語ってくれたことがありました。そこでウィルフォード・ウッドラフ大管長の話聞いたのです。

ウッドラフ大管長は御霊の促しを受けた経験について語りました。彼は「ニューイングランドとカナダで神のすべての聖徒たちを集め、シオンへ連れて来る」よう大管長会により派遣されました。7

彼はインディアナ州のある兄弟の家に立ち寄り、馬車を裏庭に止めました。自分と妻と子供一人が馬車の中で、残りの家族は家の中で寝ることになりました。夜になって眠っていると、御霊がささやき、警告しました。「起きて、馬車を移動させなさい。」彼は起き上がり、馬車を少し離れた場所へ移動させました。寝ようとすると、また御霊が語りかけました。「ラバをあのかしの木から離しなさい。」そのとおりにして、再び眠りに就きました。

30分もたたないうちに、さっきまでラバがつながれていた木につむじ風が吹きつけ、木をなぎ倒し、二つのさくを越えて100ヤード(約90メートル)ほど吹き飛ばしてしまいました。幹の周囲が5フィート(約1.5メートル)もある大きな木が、ちょうど馬車の止めてあった場所に落ちました。ウッドラフ長老は御霊の促しに耳を傾けることにより、自分と妻子の命を救ったのです。8

これと同じ御霊が皆さんにも促しと守りを与えてくれます。

50年近く前、中央幹部として初めて召されたとき、わたしたちはユタ溪谷のとても狭い土地に住んでいました。わたしたちはそこを自分たちの農場と呼んでいました。牛と馬が1頭に鶏、そして子供がたくさんいました。

ある土曜日、カリフォルニア州のステーキ大会に出席するため、空港へ車で出かけようとしていました。ところが、雌牛が出産し、危険な状態になりました。子牛は生まれましたが、雌牛は起き上がれませんでした。獣医を呼ぶと、すぐに来てくれました。雌牛が針金を飲み込んでしまっていたため、あと1日ももたないだろうとの話でした。

わたしは動物の食肉加工会社の電話番号を書き留め、雌牛が死んだらすぐに妻が業者を呼んで引き取ってもらうよう手配しました。

わたしが出かける前に、家族の祈りをしました。祈ったのは幼い息子でした。「旅行に出るパパと、みんなを祝福してください」と天の御父にお願いした後、彼は真剣に懇願しました。「天のお父様、どうか雌牛のボシーが元気になるように祝福してください。」

カリフォルニアの大会でわたしはその出来事について話し、こう述べました。「わたしたちが祈り求めるものはすべて、そう簡単にはかなえられるわけではないことを、息子は学ばなくてはなりません。」

学ぶべき教訓がありました。でも、学んだのは息子ではなく、わたしでした。日曜日の晩、帰宅すると、ボシーは「元気に」なっていたのです。

このプロセスは預言者だけのものではありません。聖霊の賜物は男女を問わず、また幼い子供たちにさえ、平等に与えられています。どのような問題についても、霊的な癒しをもたらすのは、この驚くべき賜物と力によるのです。

「さて、神は天使によって、人々に、まことに男ばかりでなく女にも御自分の御言葉を伝えられる。それだけではない。知者や学者を辱める御言葉が、これまで何度も幼い子供に与えられてきた。」（アルマ32：23）

主はわたしたちを促し、導き、教え、誤りを正し、警告するために、わたしたちの思いに知識を注ぐ方法をたくさん持っておられます。主はこう言われました。「あなたに降ってあなたの心の中にとどまる聖霊によって、わたしはあなたの思いとあなたの心に告げよう。」（教義と聖約8：2）

また、エノスはこう記しています。「わたしがこのように心を込めて祈っていると、見よ、再び主の声わたしの思いに告げ〔た〕。」（エノス1：10）

皆さんは自分が知る必要のある事柄を知ることができます。そのような靈感を受けることを学び、受けるにふさわしい状態を保てるように祈ってください。靈感を受ける器である思いを清め、世の汚れから遠ざかってください。

かつて七十人第二定員会会員であったグラハム・W・ドクシー長老は、ある経験について話してくれました。後に中央初等協会会長会顧問になった、長老の母親もこの経験について語ってくれました。

第二次世界大戦の間、海軍にいた彼は中国へ配置されていました。彼は数人の仲

間と列車で天津へ見物に出かけました。

やがて、皆で基地へ帰ろうとして列車に乗りましたが、1時間余りたってから列車は北に向かい始めました。乗る列車を間違えてしまったのです。中国語を話せる者はいませんでした。そこで、緊急連絡用のひもを引き、列車を止めました。田舎のどこかで降ろされ、町へ歩いて戻るほかありませんでした。

しばらく歩くと、手動の作業用車両を見つけました。鉄道作業員が使うものです。それをレールの上に乗せ、線路に沿って動かし始めました。下り坂はすいすい進みましたが、登り坂は押さなくてはなりません。

ある急な下り坂に来たとき、みんなは慌てて車両に乗り込み、滑走し始めました。最後に乗ろうとしたのはグラハムでした。唯一空いていた場所は車両のいちばん前でした。わきを走りながら、やっとよじ登りました。ところが、滑って車両の前に落ちてしまいました。背中を打ちながらも、ひかれないように、倒れたまま足で車両を押さえました。車両はすぐにスピードを増してきました。そのとき、母親の声が聞こえました。「グラハム、気をつけて。」

長老は重い軍用の長靴を履いていました。足が滑って、靴の厚い底が車輪のギヤに挟まり、車両は、長老の手からわずか1フィート（約30センチ）の所で止まりました。

長老の両親は当時、合衆国東中央諸州伝道部を管理していましたが、そのときはホテルで寝ていました。母親は朝2時ごろ起き上がると、夫を起こしました。「グラハムが大変よ。」二人はベッドのそばにひざまずき、息子の無事を願い求めて祈りました。

長老が受け取った次の手紙にはこう書いてありました。「グラハム、どうしたの。何が起きたの。」

そこで、長老は事の次第を両親に書きました。時刻を比べてみると、長老が線路に落ちたまさにその時刻に、両親は地球の反対側にあるホテルでひざまずき、長老の無事を祈り求めていたのです。

こうした御霊の促しと祈りの経験は、教会では珍しいことではありません。それは天の御父がわたしたちのために与えてくださる啓示の一部です。

悪魔が使う最も狡猾な方法は、わたしたちはもはや祈るにふさわしくないと説得することです。皆さんがだれであれ、何をしたにせよ、常に祈ることができます。

預言者ジョセフ・スミスは、「肉体を持つすべての者は、肉体を持たない者を支配する力を持つのです」⁹と約束しています。

誘惑に遭うとき、思いの中に削除キーを作り出すことができます。好きな賛美歌を歌うのもよいでしょう。精神が肉体を管理するのです。肉体はその道具にすぎません。ふさわしくない考えが心に押し入ってきたら、削除キーを押して、ほか

のものに置き換えましょう。ふさわしい音楽には力があり、思いを制御するのに役立ちます。10

オリバー・カウドリが翻訳する試みに失敗したとき、主はこう言われました。

「見よ、あなたは理解していなかった。あなたはわたしに求めさえすれば、何も考えなくてもわたしから与えられると思ってきた。

しかし見よ、わたしはあなたに言う。あなたは心の中でそれをよく思い計り、その後、それが正しいかどうかわたしに尋ねなければならない。もしそれが正しいければ、わたしはあなたの胸を内から燃やそう。それゆえ、あなたはそれが正しいと感じるであろう。

しかし、もしそれが正しくなければ、あなたはこのような感じを少しも受け〔ない〕。』（教義と聖約9：7-9）

その原則の実例として、ある少女の話をしてしましょう。少女は、すずめを捕まえるためにわなを仕掛けた兄に腹を立てました。

助けを得ることができなかつたので、独り言を言いました。「いいわ、お祈りするから。」

祈った後で、母親に言いました。「お祈りしたから、わなですずめを捕まえることはできないわよ。絶対にできないわ。」

母親は言いました。「なぜそんなに自信があるの。」

少女は言いました。「祈った後で、あの古いわなをけっ飛ばして、こなごなに壊しちゃったんだもん。」

皆さんがたとえかつてのアルマのように若く強情であっても、あるいは「これらのことについて知っていながら、知りたいと思わなかつた」アミュレクのように心を閉ざしていても、祈ってください（アルマ10：6）。

祈ることを学んでください。しばしば祈ってください。思いと心を込めて祈ってください。ひざまずいて祈ってください。祈りは天の扉を開ける自分自身の鍵です。鍵は幕のこちら側に付いています。また、わたしはすべての祈りを「みこころが……行われますように」という言葉で結ぶことを学んできました（マタイ6：10。ルカ11：2；3ニーフアイ13：10も参照）。

困難や落胆、苦痛や失望がまったくなくなることを期待してはなりません。なぜなら、これらに耐えるために、わたしたちは地上へ送られたからです。

ある人がこう書いています。

主が作ってくださった計画も

思慮と忍耐力のない手の中では
もつれてしまう。

苦しい叫び声を上げるわたしたちに、主はこう言われる。

「わたしがもつれをほどいている間、静かにしていなさい。」 11

聖文はこう約束しています。「あなたがたの会った試練で、世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練に合わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。」 (1コリント10 : 13)

救い主はこう述べておられます。「わたしに近づきなさい。そうすれば、わたしはあなたがたに近づこう。熱心にわたしを求めなさい。そうすれば、あなたがたはわたしを見いだすであろう。求めなさい。そうすれば、与えられるであろう。たたきなさい。そうすれば、開かれるであろう。」 (教義と聖約88 : 63)

わたしたちは大会のこの部会を教会役員の支持から始めました。最初に支持されたのは末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長であるトーマス・S・モンソンでした。わたしは恐らく、地上のだれよりも彼のことをよく知っていますので、彼が「預言によって、……神から召され [た] 」 (信仰箇条1 : 5) という特別な証を述べたいと思います。モンソン大管長は、そしてフランシス夫人も、彼らの家族も、彼の担っている途方もなく重い務めをよく果たせるよう、わたしたちの祈りを必要としています。

モンソン大管長が肉体的にも、精神的にも霊的にも支えられるよう祈ります。そして彼が「預言によって、……神から召され [た] 」ことが、彼と非常に親しい人々にとって明らかなように、すべての教会の会員にとっても明らかになるように祈ります。モンソン大管長が召されたとき、大管長は「福音を宣べ伝え、その儀式を執行するために……権能を持つ者による按手によって」その職に召されたのです。

主がわたしたちを祝福してくださいますように。そして大管長に託された大いなる務めをモンソン大管長が果たしていけるように、大管長とご家族にとって必要なあらゆる支えを主が与えてくださいますように。わたしは主の僕として、イエス・キリストの御名により、これらを証し、これらの祝福を願い求めます、アーメン。

NOTES

注

1. 教義と聖約84 : 46参照
2. 教義と聖約138 : 56参照。ローマ8 : 16も参照
3. 教義と聖約101 : 78参照

4. 1コリント2 : 14 ; 教義と聖約8 : 2 ; 9 : 8-9参照

v6

6. 1ニーファイ17 : 45参照

7. ウィルフォード・ウッドラフ, Conference Report, 1898年4月, 30; "Remarks," *Deseret Weekly*, 1891年9月5日, 323参照

8. ウィルフォード・ウッドラフ, *Leaves from My Journal* (1881年), 88参照

9. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』 211

10. 教義と聖約25 : 12参照

11. 作者不詳, ジャック・M・リオン他編, *Best-Loved Poems of the LDS People* (1996年), 304